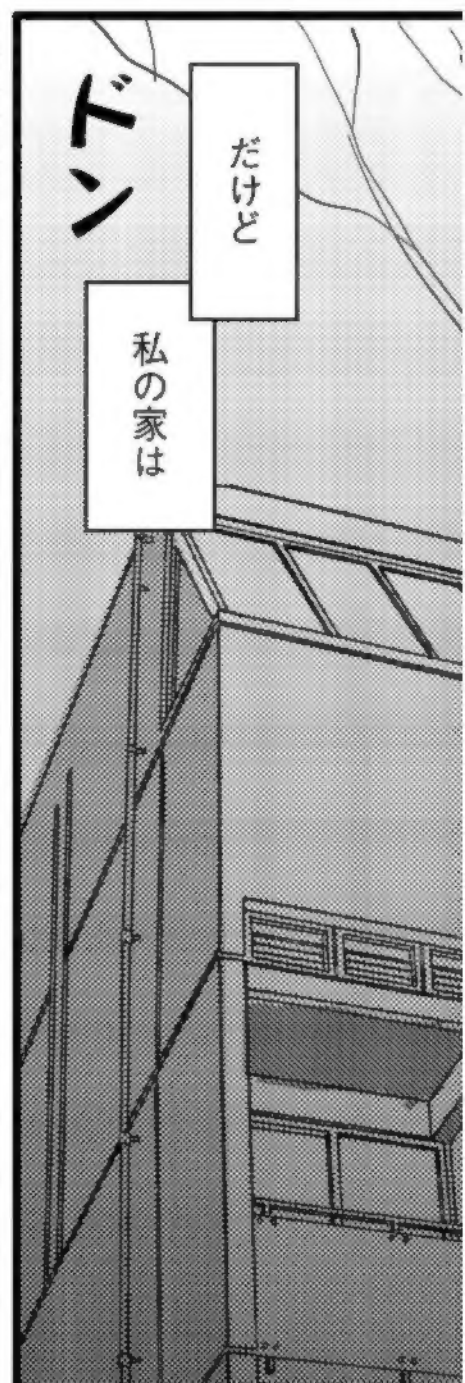
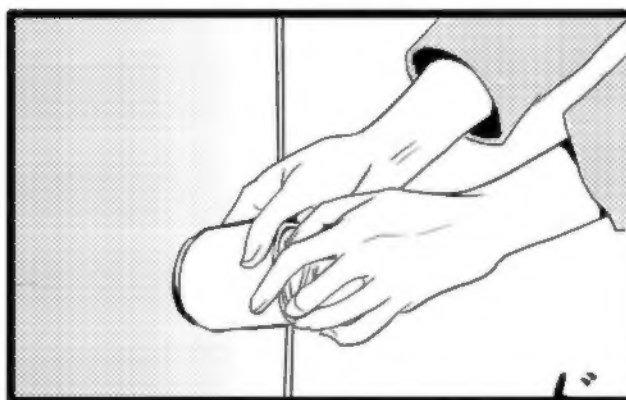
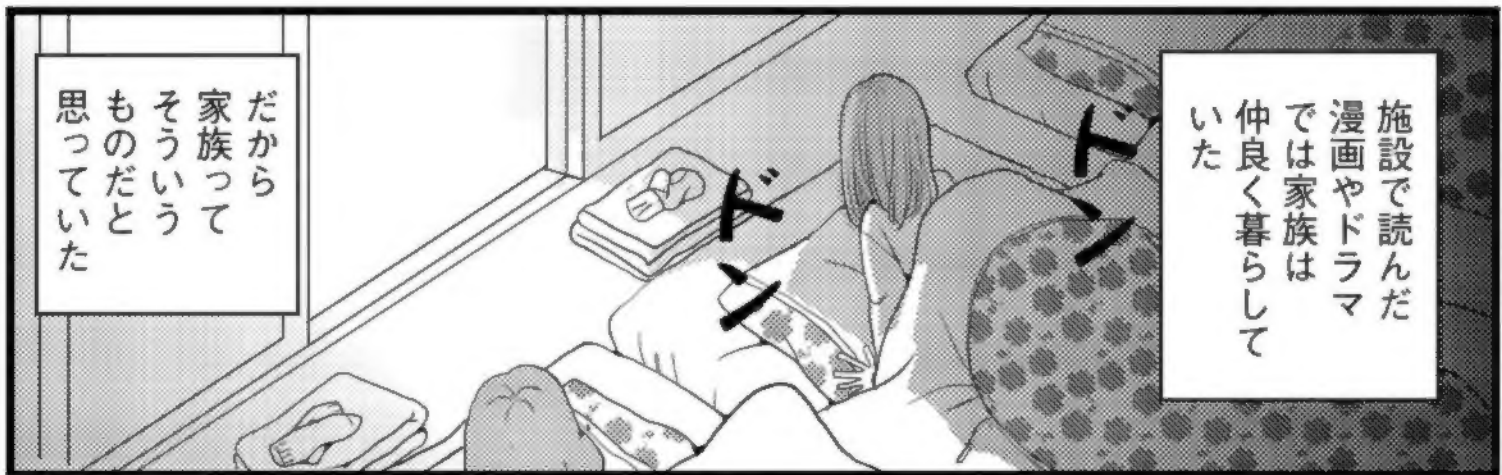
ずっといい子でいようとがんばった。
そうすればきっと何か
いいことがあるはずだったから――。
子はかすがい
読み切り
Risari presents.
りさり

ドン
だけど
私の家は
ドン
明日早いのにこんな時間まで飲むなんて
皆が少しずつ不幸を持ってる

家庭の事情で姉の鈴とともに一歳から児童養護施設で過ごしたさり。その後両親の希望により施設を出て父、母、姉の四人で暮らすことになったが、不仲の両親の間で姉妹は不安な気持ちを抱えた日々を送っていた。＊この物語は著者の実体験をもとに描かれていますが、作品中に登場する個人名・施設名などは架空のものであり、実在の人物・団体名とはいっさい関係ありません。

朝から貸切の予約があるというのに

母は小言を言えば時間が巻き戻り、素面の父が戻ると思っている

なんか言ったか？あぁ？

俺のものに触るな

ブラシかけないと埃だらけでしょう

見られると困る物でもあるのかしら

触るな

何が言いたいんだ？
ほっとけ！
ハラハラ
ママ！もうやめて
もうそれ以上パパに構わないで
酒臭い運転手の車に誰が乗りたがるかしら

ママがいう事は わかるんだけど
パパを どんどん 怒らせる
さおりは 気が強くて 一本気だから なあ
いつも 一言多くなる そこを堪えられないか
子どもの為と 思えば母親なら 我慢もできるだろ
また出て きたの？

お酒を飲むと 人が変わるのよ。
孝一さん だって
ここに迎えに 来るときは 反省してる じゃない
女は我慢よ あんたの気持ち ひとつなの

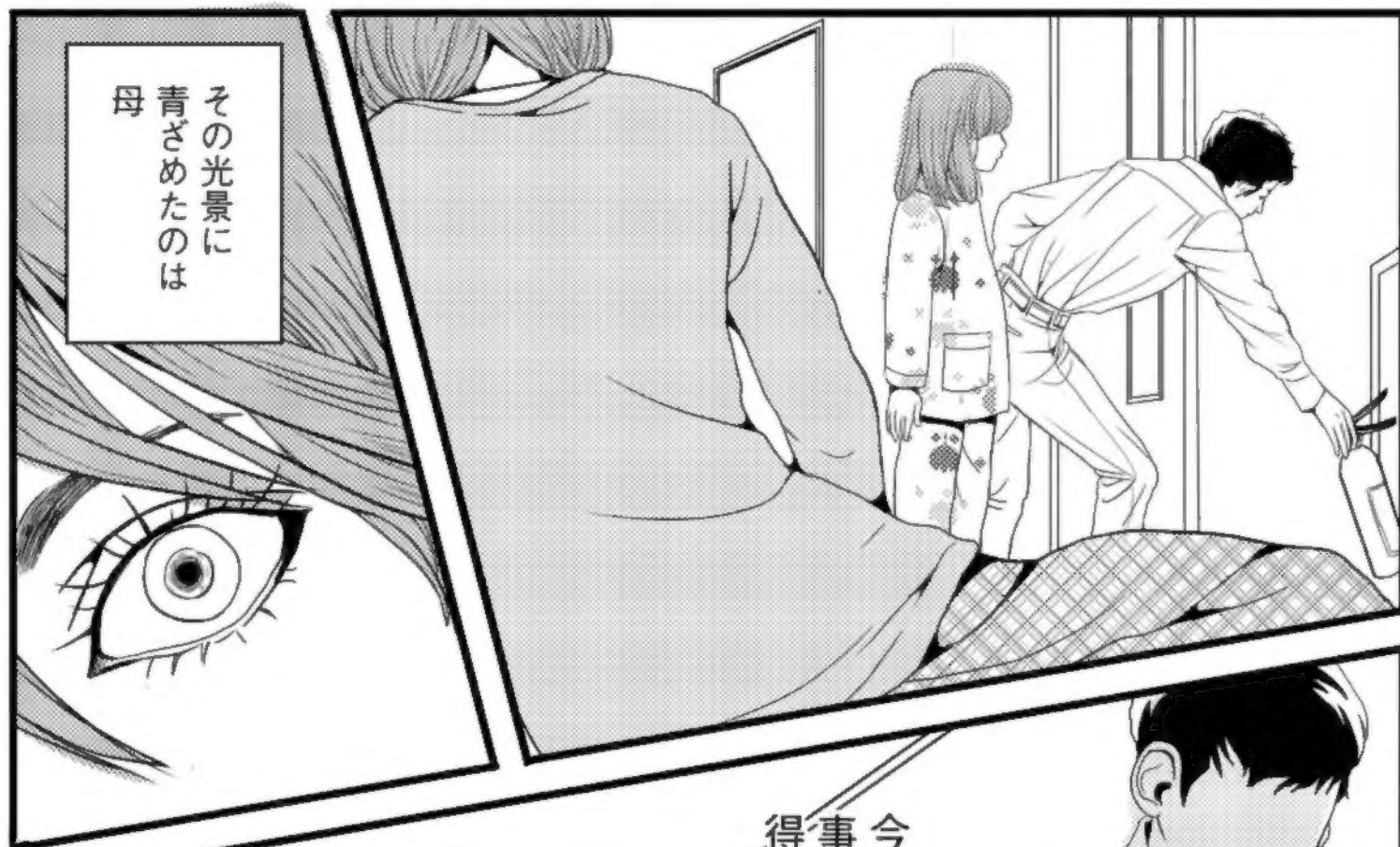
母には母の 思惑や感情が あったと思う

皆 分かって いるわよ

あなたが どういう 人か

さっきから
調子こいてん
じゃねえぞこら
何だその目は
こうなると
もう誰も
止められない
俺はこんな男だよ
お前は何だ
こんな男の何だよ
胸が重く
気持ち悪い
父の暴力が
始まると
動悸がする
逃げたいけど
目を離すと
母に何か
起きたとき
守れない

子はかすがい
ガターッ
待て
俺と一緒にいるのが
そんなに嫌か

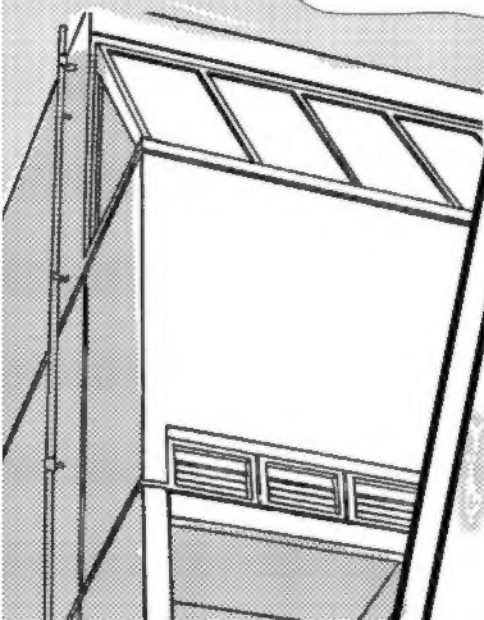
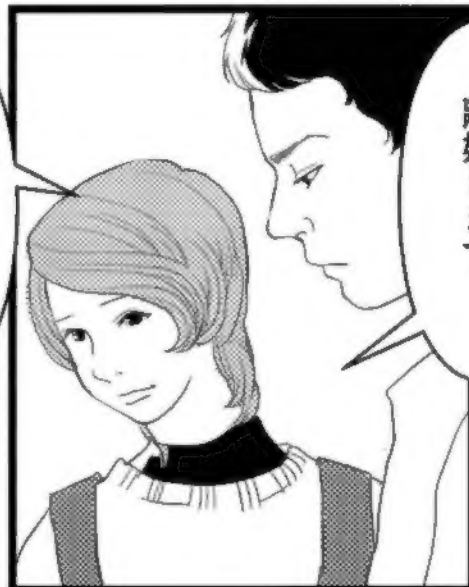
言葉より
体が先に動いて
やめてやめてやめてやめて
胸の中で叫んだ
張っていた
父の体の
緊張が緩む

その光景に
青ざめたのは
母
今回は
事なきを
得た
でも
いつか
母は抱えていた
迷いに決断を
下さなければ
ならなかった
自分への暴力に
子どもが
巻き込まれる
かもしれない

その週の日曜日
おはよう
オーちゃん
おはよう
オハヨーホケキョ
さり、
こっち来て
座って
パパとママは
話し合って
決めた事が
あるの
ママは今日、
おばあちゃんの
所に行くけど
もう、ここには
戻らないから……
パパとママは
離婚します
だからママは
パパと一緒に
暮らせないのよ

後で駅までママを見送りに行くから
今夜から俺が夜勤の時はお前たちだけで留守番するんだ
離婚ってどうなるの？

さ、朝ごはん出来ているから食べなさい
味がしない

ママが出ていく

水と野菜は毎日替えてね

施設では
物心付いた
時から
自分の事は
自分でしてた。

今では
髪を結ぶのも
服を選ぶのも
母がしてくれる
そんな生活に
馴れてしまった

ママは今まで
沢山苦しい
思いをして
子どもと離れて

ずっと
寂しくて
これで
いいわよ

さりは先に
外に出て
待っていて
やっと子どもと
一緒に暮らせ
たのに

また
ひとりぼっちに
なってしまう
鈴ちゃん
支度した？
行かない
さりだけ
行って

どうして？

観たい
テレビ
あるし

可哀相なママ
私も寂しくて
たまらない
ママ出て
行くんだよ
もう戻って
来ないんだよ
分かっている
さりちゃんが
見送ってきて
不登校に
なるほど
ママを心配
していた
鈴ちゃんが
平気なわけない
鈴
それじゃあ
ママ行くけど
後を
頼むわね
パパが
悪いんだ
パパが
ママを
追い出すんだ
パタン

鈴は
来ないのか
鈴は鈴で
思う事が
あるんで
しょう
母は私に
子どもに必要なのは
母親だと言った。
タクシー
来たわよ
ママ、
あのね
なのにどうして
なに？
うぅん
なんでも
ない
母を追い出す父と
この先
暮らさなくては
ならないのか。

父が常に
側にいたので
母と話を
交わすことは
出来なかった。
日曜でも
人が多い
わね

母の家出には
よく付き添った。
乗車券

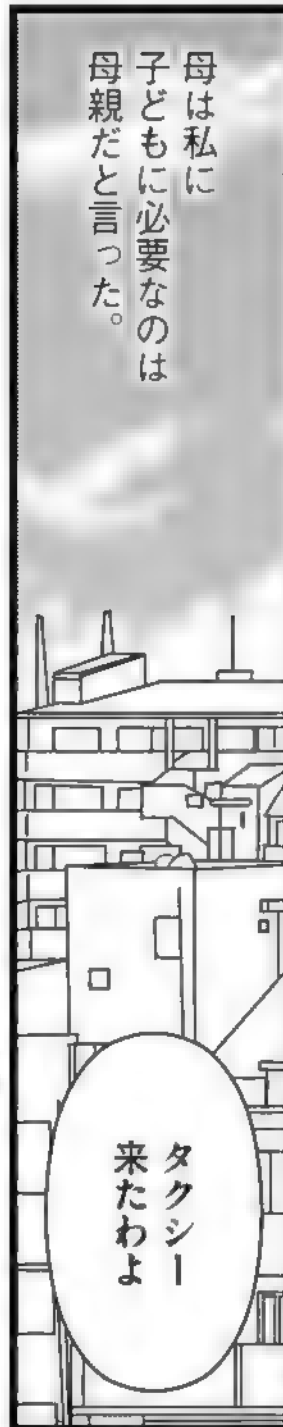
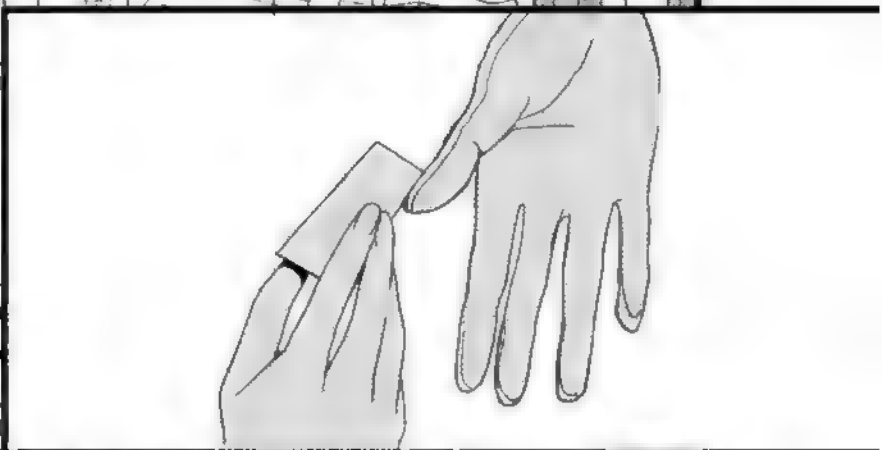
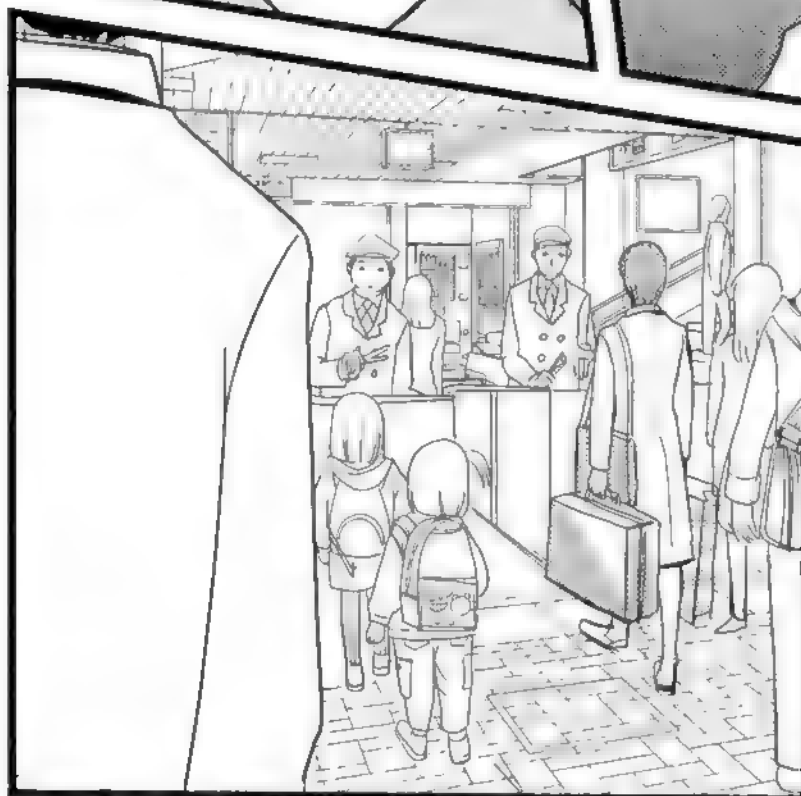
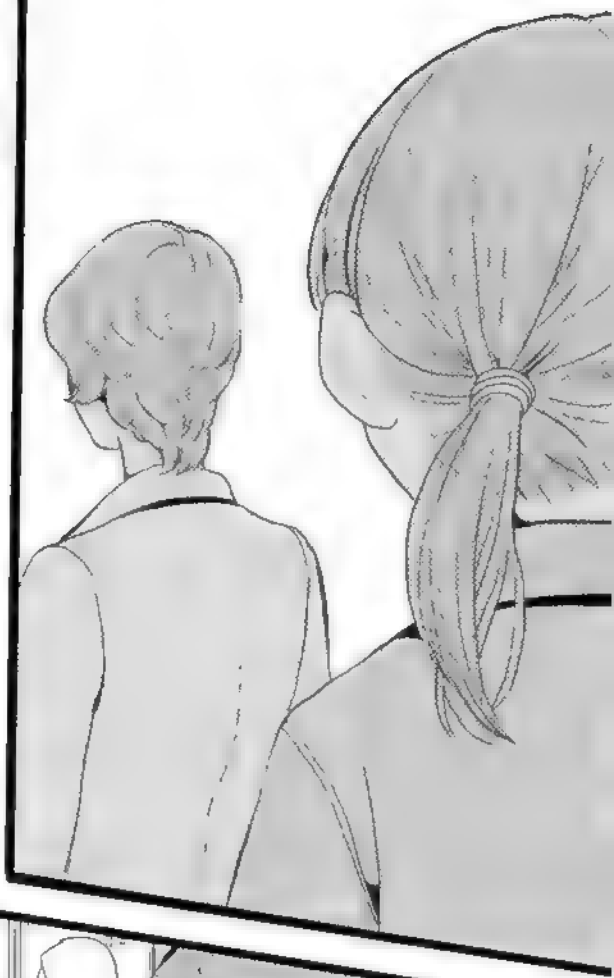
今日は
一人分の切符。

初めて父を
憎らしいと
思った

私が赤ちゃんの頃
母が家を出たのも
父の暴力だった

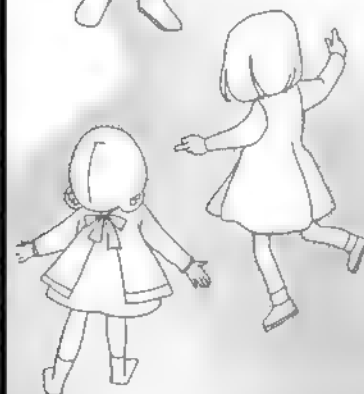
パパの
言う事を
よく聞いてね

今度も
同じ事を
繰り返す

だめー

だめ！
行かないで
ここで手を離したら
一緒に暮らすチャンスは
もう来ないかもしれない
さり
私に必要なのは母親だと言ったのママだよ
行っちゃダメ
でも、母だけを引き止めても駄目だ
父が反省し暴力を振るわないと約束しないと母は家に帰れない

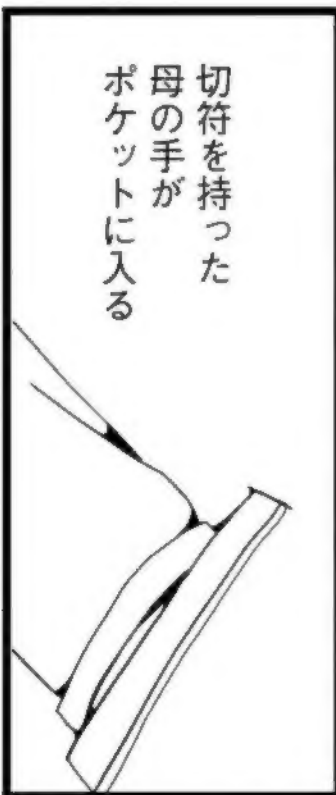
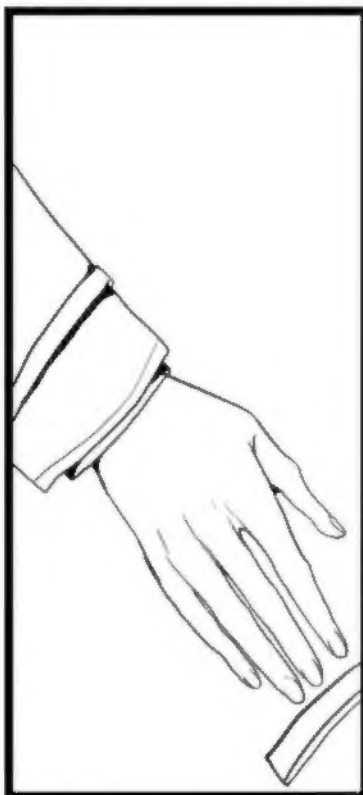
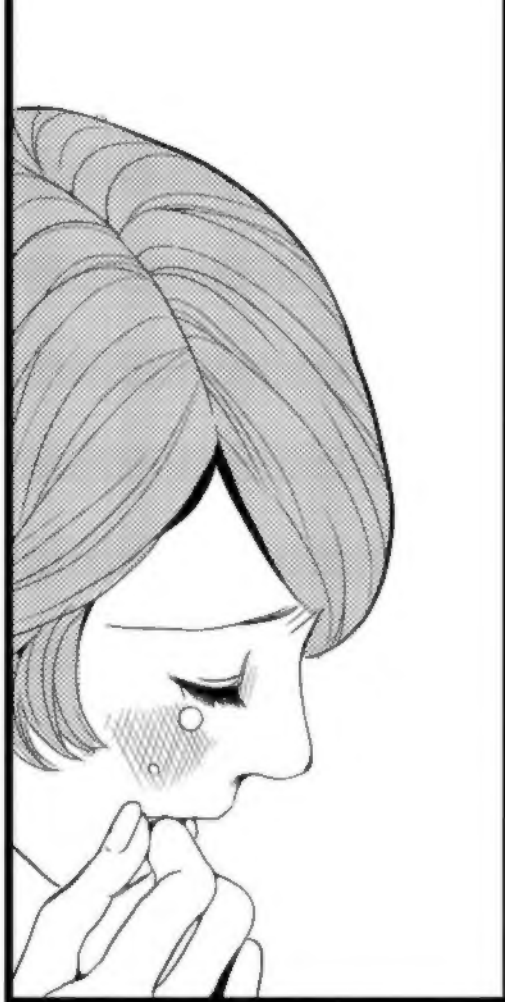
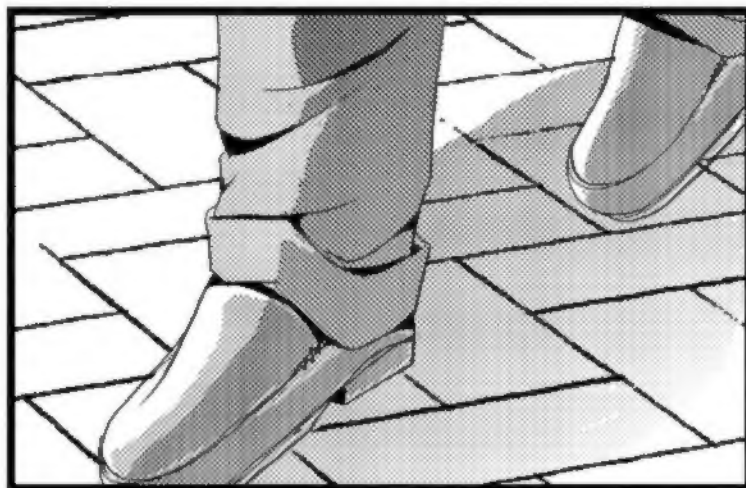
さり
こっち
きなさい
パパ、ママを
とめて！
ママを
行かせないで、
お願い、
ママを止めて
ママに謝って！
一度失った
暮らしは
もう戻らない
あの時のように
もう
ママッ
何度も何度も
「嫌」と言えなかった
ことを悔やむのは
いやだ

ママやめてー
ギ
じゃあはい、
次の方から
駅員は母と私に決着がつくまで切符を受け取らない事にした
ママ
パパはママに謝って！
ママを連れて帰って
でも母は手を離すとすぐに改札に向かう
皆見てるわよ、恥ずかしいから……
声の大きさには自信がある！
さりちゃんの声はどこにいてもわかるね
と施設でも太鼓判を押されていた。

施設の大宿舎で
子どもにもまれて
育ったさりは
すぅー
うわあああん
ママー
行かないでママ
人目なんか
怖くない

泣きながら
私は腹を
立てていた。
わあああああああん
ママ
ママッ
施設でも
沢山の子供達は
仲良く暮らして
いる。
自分より
弱いものに
手を上げるのは
卑怯者のすること
だと知ってる。
難しい事は
望んでいない。
家族が仲良く
暮らす事
ママを行かせ
ないで!
ママを止めて
どうしてママが
出て行くの!
悪いのはパパなのに!
どうしてそんな
簡単な事が
大人の二人には
できないのだろう
居心地の良い施設から
私を引き取ったのは
こんなものを見せる
ためなのかと思うと
悔しい。

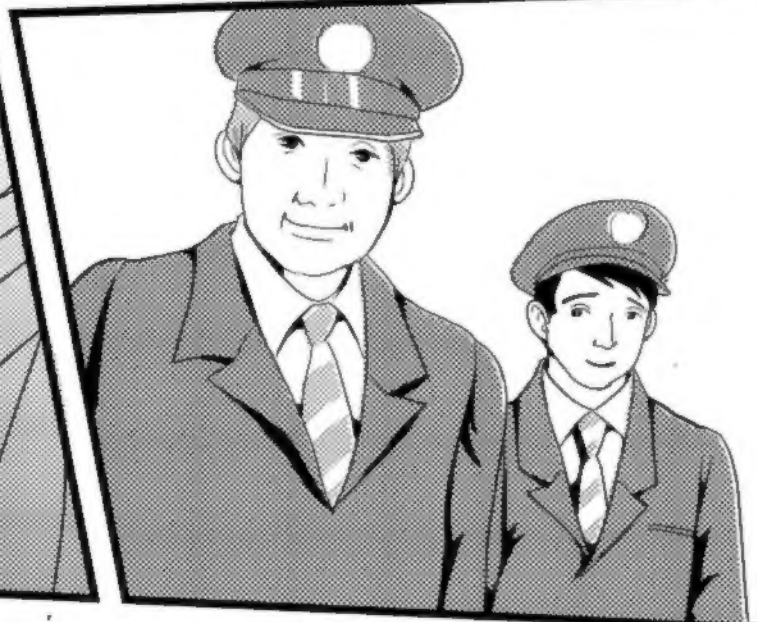
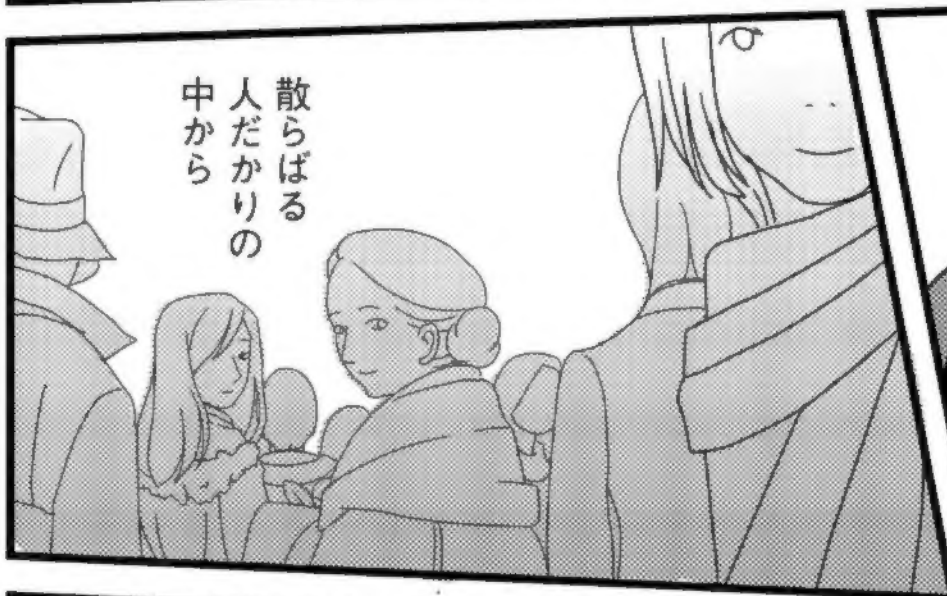
先生にファンレターを書こう!

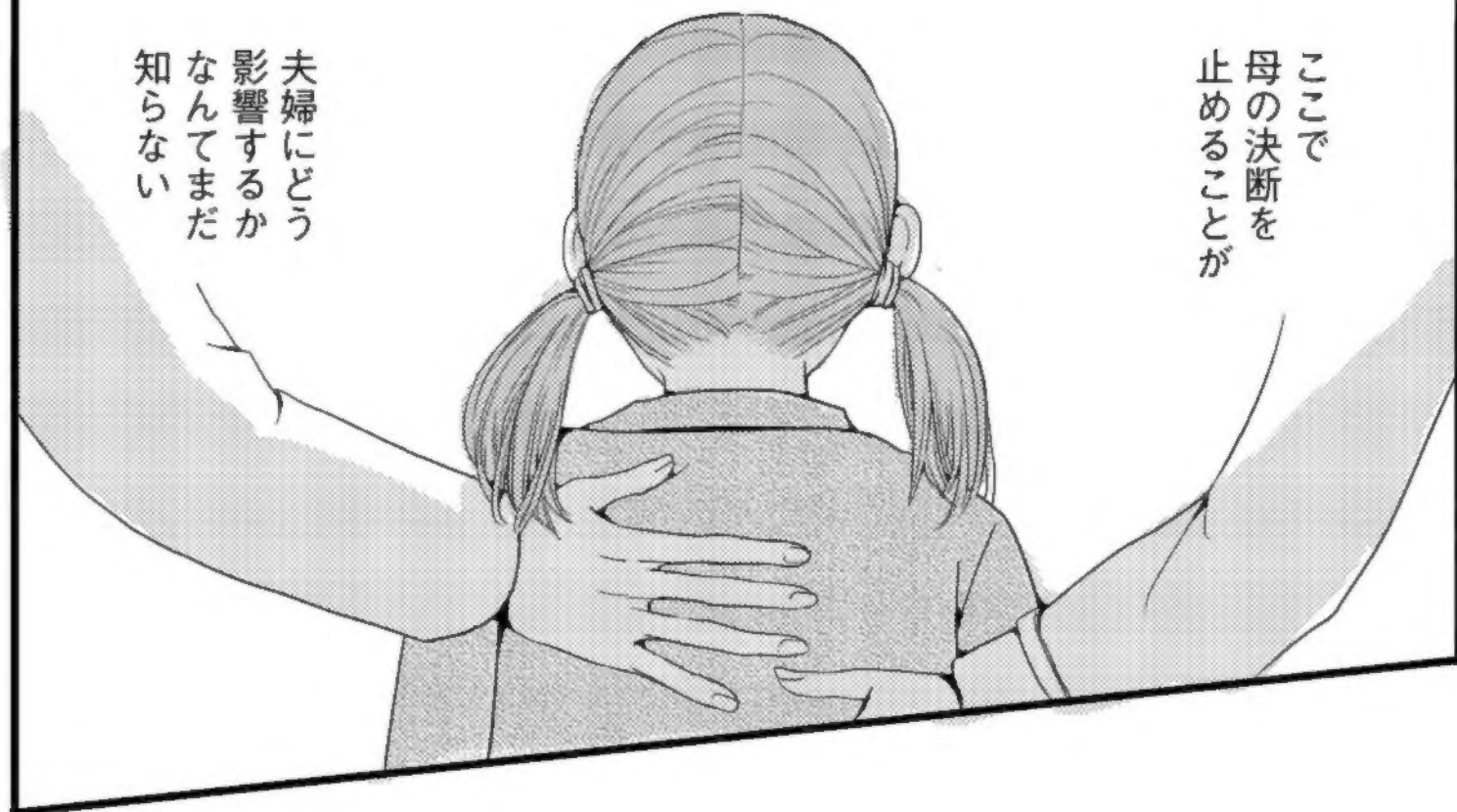
たしなみを何か一つ習っておこうと、お花の教室へ行きました。……つくづく生花とは相性が悪いと知りました。私にはドライフラワー造りが合っているようです。

あて先
〒113-0024東京都文京区西片2-19-18 新書館
ウィングス編集部気付 りさり 先生

切符を持った
母の手が
ポケットに入る
父が
母の所へ
歩み寄り
母の
荷物を
手に
取った。

こんなに泣いて
恥ずかしいわ
さあ
帰りましょう
私は
まだ子供で
朝 母が言った
「離婚するから
パパとはもう
一緒に暮らせない」
という意味を
理解して
いなかった

散らばる
人だかりの
中から

子供のためにも
頑張りなさい
かすかな
メッセージが
いくつか
聴こえた

ここで
母の決断を
止めることが

夫婦にどう
影響するか
なんてまだ
知らない

ただ、
「子は鎹」
意味を知ったのは
ずっと後だけど

この時、
私の家族を
見た誰かが

私の事を
そう呼んだ